

地(知)の拠点大学による地方創生推進事業

NIIGATA COC+ 事業概要

「ひと・まち・しごと」創生を循環させる
NIIGATA人材の育成と定着

県内の
就職率向上

雇用促進
雇用創出

国内外からの
人口流入

事業項目

教育プログラム開発

インターンシップ改革

地域活性化・産業振興

教育の国際化

国際交流

主要な
達成指標

1. 事業協働地域への就職率 **10.0%向上** (平成26年度57.3%→平成31年度67.3%)
2. 事業協働機関へのインターンシップ参加数 **4.7倍増** (平成26年度109人→平成31年度514人)
3. COC+大学が開発する教育プログラム履修者数 **600人** (COC+大学入学生の約27%)

教育プログラム開発

NIIGATA COC+
教育カリキュラム改革 【新潟大学】

1. 地域志向科目の必修化

●新潟地域科目の要件と設定

平成29年度から全学で90科目を設定し、全学生が履修できる体制を整備
+ 新たな産官学共同実施科目の開発(コストシェアの試行)

2. 新たな学位プログラムの新設

●平成29年度 新学部(創生学部)設置

社会の課題の探求・分析・解決を中心に学修

3. 新潟地域人材認定制度の開発

●必要単位を修得した学生を新潟創生人材と認定する制度を構築

真の強さを学ぶ。

新潟大学

地域理解
課題発見

新潟地域における課題
(産業、文化、暮らしなど)
を発見できる。

発信力

学修成果を発信先(国内、海外)の社会・文化的側面など文脈にあわせて広く社会に向けて発信できる。

課題解決

発見された課題について、複数の学問領域の知識を活用した解決策を提案できる。

主体性・協調性

課題に対して複数人のチームで役割分担し、その課題解決に向けて地域・産業界などの社会と協働で取り組むことができる。

新潟創生人材
の育成

1

インターンシップ改革

連携大学	新潟大学, 新潟県立大学, 敬和学園大学, 事業創造大学院大学, 長岡大学, 新潟国際情報大学, 新潟青陵大学 新潟青陵大学短期大学部, 長岡造形大学, 新潟経営大学, 新潟工科大学, 新潟産業大学, 新潟薬科大学
事業目的	<ul style="list-style-type: none"> ● インターンシップを学士課程のカリキュラムの一部として位置付けます。 ● インターンシップを通じた学生のキャリア意識形成だけではなく、新潟県内の地域特性や産業理解、地元企業の認知度を高めることを目的とした取り組みです。

1. メッセ見学研修会開催 (志事messe見学tour研修) 【新潟大学】 ※1・2年生中心

学生が地元新潟の企業を知る、見学研修機会を積極的に創出することから、地元就職率増を期待できます。

「フードメッセ in にいがた」等を見学します。



2. 地元のトップランナー出前授業【新潟大学】 ※2年生中心

実務者による教育。県内企業のトップランナーから講演をいただき、地元企業の理解をより深めます。

3. インターンシップマッチングフェア開催【新潟大学】 ※3年生中心

地元新潟企業と学生の出会い場所として開催。企業担当者と直接対話できる貴重な機会です。(長岡・新潟にて/企業約150社、学生700人以上が参加)



4. インターンシップ学生研修【新潟大学】 ※3年生中心

学生がインターンシップに参加し、企業を知る機会を創出します。体験型、PBL型インターンシップです。(日程:8~9月/対象:3年生中心/事前研修、事後研修)

5. インターンシップフォーラム開催【新潟大学】 ※3年生中心

情報発信、学生発表、企業の事例研修、大学教職員の研修を目的として開催。多様化するインターンシップを理解する機会です。(新潟・長岡にて)



6. 先輩(OB・OG)による出前授業【新潟大学】 ※4年生中心

実務者による教育。地元企業に就職した先輩による出前授業。社会人としての心構え等、実社会を知る研修です。

7. 教職員研修(インターンシップ事例交換等)【新潟大学】 ※大学教職員向け

外部講師から先進事例の研修、地元企業を知る、ワークショップ、取り組み計画の検討、意見交換などを行います。

8. 企業向けインターンシップ研修【新潟大学】 ※地元中小企業向け

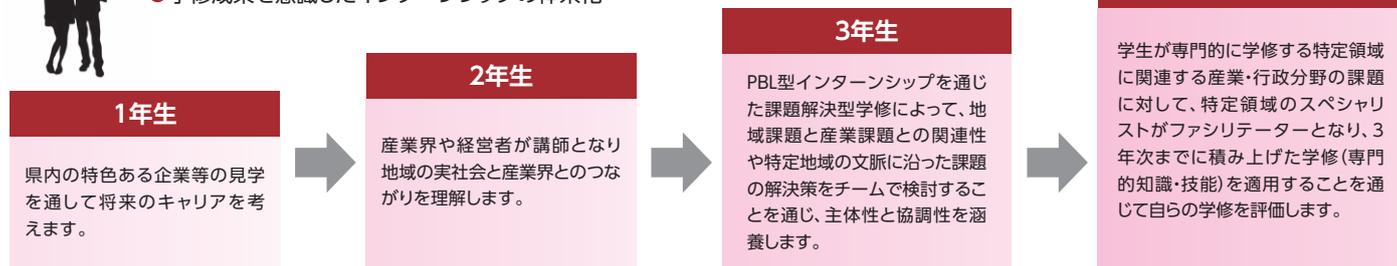
インターンシップを受け入れる地元企業向けの研修会。受け入れ企業の拡大と質の向上を目指す研修です。



インターンシップ改革



- 新潟県内の地域特性や特色を理解するための体系的インターンシップ
- 学修成果を意識したインターンシップの体系化



2-1

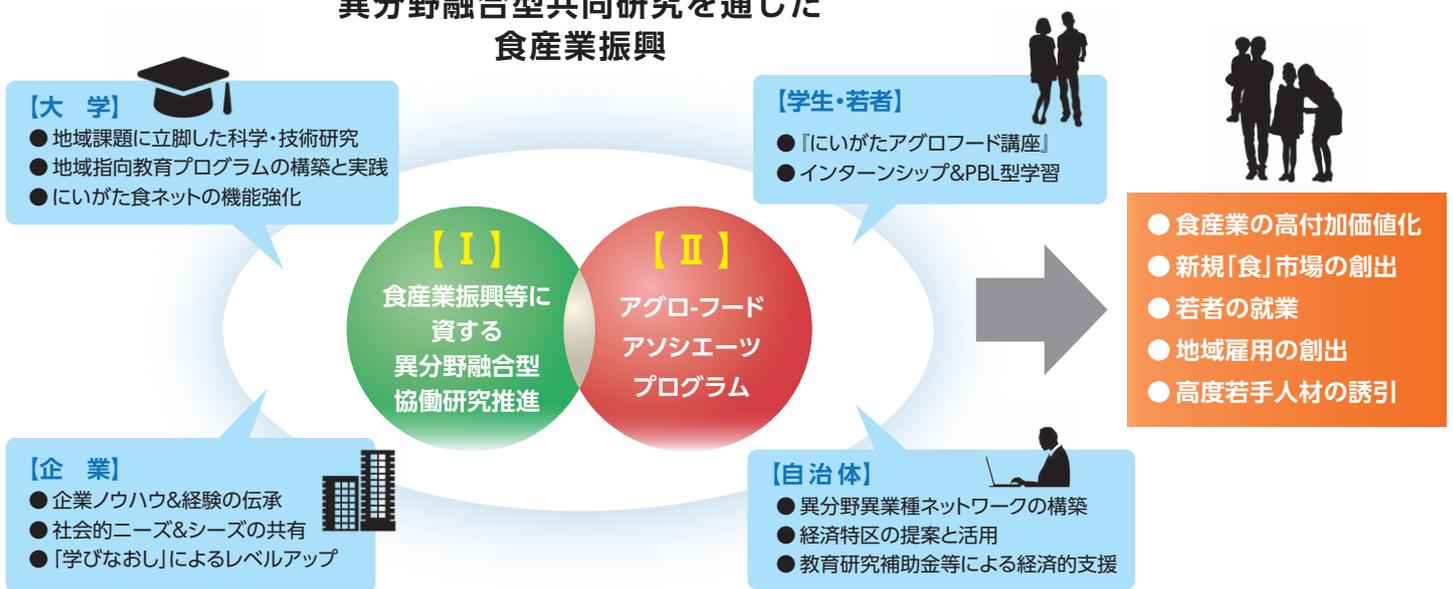
地域活性化／産業振興【食産業振興】

連携大学	新潟大学、新潟薬科大学
事業目的	<ul style="list-style-type: none"> ● 食産業関連の技術と科学の高度化を図ります。 ● 若手人材の県内食産業就業を促します。 ● 社会で活躍する中核人材の更なる高度化を図ります。 ● 異分野・異業種ネットワークの充実を目指します。

【新潟県食産業の現状と課題】

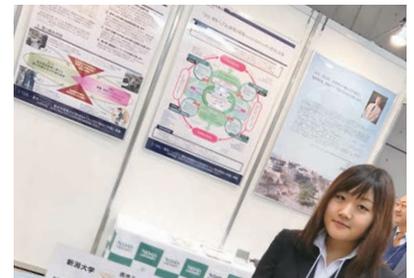
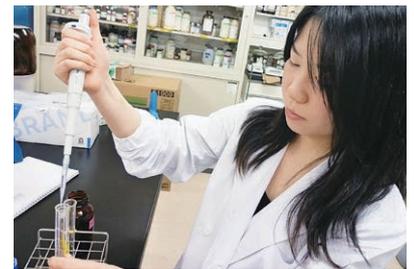
- 農業県の印象が強い新潟ですが、農業産出額は20年前の7割以下、都道府県別順位も下落を続けています。
- 農業を取り巻く環境をみると、農業者の高齢化、後継者不足、安価な輸入農産物の流入、中山間地での狭隘な農耕地と降雪量の影響など、決して楽観視できるものではありません。
- 食料品製造業にあっては、新潟県が産出する質の高い農産物を原材料とし、技術と科学を十分に適用することによって、一層の高付加価値化をはかることができると見込まれます。

異分野融合型共同研究を通じた食産業振興



● 異分野融合型共同研究を通じた食産業振興【新潟大学】

① 食産業への人材供給促進を図るため、異分野型共同研究を通じた食産業等振興を推進するための事業を構築・実施するとともに、② 食産業等へ供給する人材の質保証を目的とした「アグロ・フードアソシエーツプログラム(にいがた地域人材認定制度)」を構築・試行します。



事業骨子

1. 異分野型共同研究推進機関との協議・協働運営による食産業振興の推進・実質化
2. 異分野型共同研究事例の展示発表
発表例: 「フードメッセ in にいがた」、「新潟産学連携フォーラム」、「U-goサロン」など
3. 学生による異分野型共同研究・事業化プロジェクトの立案
大学生によるシーズ・ニーズ調査報告から異分野型共同研究・事業化プロジェクトの立案へ(アグロ・フードアソシエーツプログラムの課題研究として位置付け)
4. アグロ・フードアソシエーツプログラムの試行

2-2

地域活性化／産業振興【専門人材認定制度】

連携大学	新潟青陵大学、新潟青陵大学短期大学部、新潟大学、新潟国際情報大学、新潟薬科大学
事業目的	<ul style="list-style-type: none"> ● 環境保護、介護・福祉、子育て支援、まちづくり、観光など、多様な社会問題の改善に資する専門人材認定制度を設計・導入し、地域活性化に貢献できる「コミュニティビジネス・マイスター」を育成します。 ● 「専門性を持って持続可能なコミュニティの発展に能動的に寄与できる人材」及び「地域課題から新しい価値の創造ができる人材」の育成・認定制度を開発します。

1. 教育プログラム【新潟青陵大学、新潟青陵大学短期大学部】

- プログラム実施機関(専門人材認定制度の連携校)は、マイスター候補者に教育プログラムを提供するにあたり、産官学民(マルチセクター)の評価による社会的認定を受けるため、コミュニティビジネス・マイスター人材養成協議会に教育プログラムを申請します。
- 地域住民との触れ合いを通じたインターンシップなどの実践型教育を実施し、問題解決能力やコミュニケーション力を備えたリーダーシップのある人材の育成を目指します。

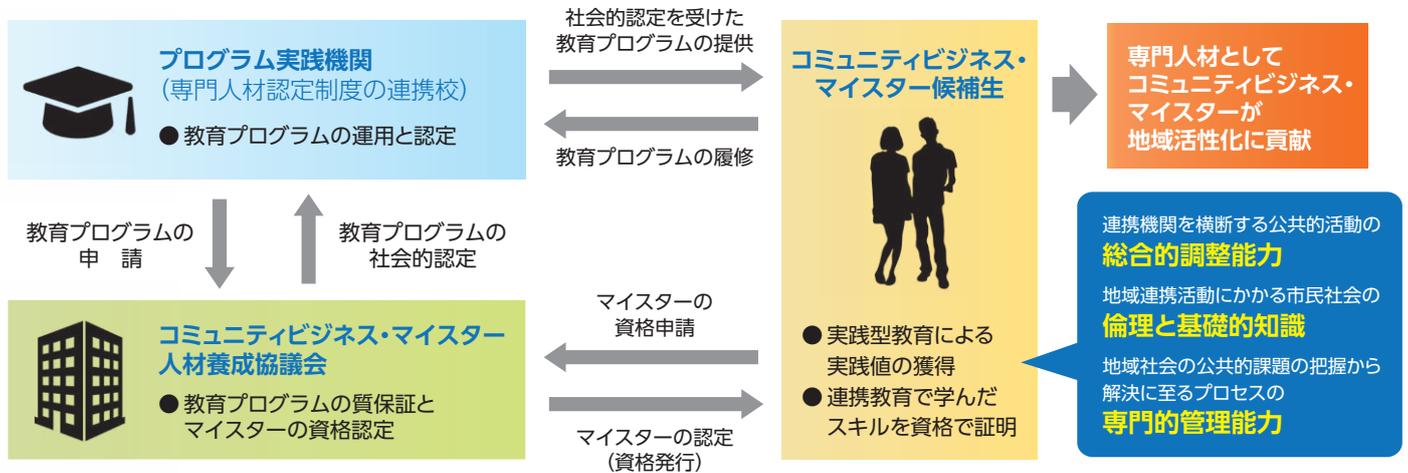
2. 人材養成協議会の設立【新潟青陵大学、新潟青陵大学短期大学部】

- コミュニティビジネス・マイスター人材養成協議会は、教育プログラムの質を保証するための社会的認定を得る手続きと、マイスターの資格認定を行います。
- コミュニティビジネス・マイスター資格の発行により、受講生はプログラム実施機関による連携教育で学んだスキルを証明することができます。

コミュニティビジネス・マイスターについて

- **コミュニティビジネス**
地域の課題を地域住民が主体的に、ビジネスの方法を用いて解決する取り組み。組織形態や活動分野が決まっているものではなく、地域課題解決というミッションを第一義に活動します。
- **マイスター制度**
ドイツの職能訓練制度。中世以来の手工業の技を引き継ぐために1953年に法制化され、ドイツの産業発展を支えてきました。約170のマイスター資格が存在し、マイスター認定は欧州資格フレームワーク(英語版、EQF)、ドイツ資格フレームワーク(ドイツ語版、DQR)においていずれもレベル6であり、これは学士レベルと同等とされています。

専門人材認定制度による地域活性化



取組名称

「地域ミッションインターンシップⅠ」

地域住民との触れ合いを通じて自ら考え、分析し、行動する力を養成。

平成28年8月29日～9月7日の10日間、阿賀町および新潟市の古町地区においてインターンシップを実施しました。活動のテーマは「高齢・過疎化が進む地域商店街の活性化」です。阿賀町での具体的な取り組みは、第1ステップとして学生が商店街を歩き、店舗スタッフとの会話の中から課題を抽出。第2ステップで自分たちが感じた課題とヒアリング内容をすり合わせ、解決に向けたアクションを検討しました。そして第3ステップでは、学生の立場で実施できる改善策を阿賀町役場の方々にプレゼンテーションし、第4ステップでは活動を振り返るとともに、課題解決に向けてさらに議論を深めました。本学では今後も、学生が課題発見から主体的に行う経験型インターンシップを通じて、問題解決能力やコミュニケーション力を備えたリーダーシップのある人材の育成をめざします。



- 1 課題発見
- 2 改善策の検討
- 3 改善案の提案および実行
- 4 行動の検証

地域ミッションインターンシップ(東蒲原郡阿賀町) 阿賀町の商店街でお店の方々にヒアリングを実施

2-3

地域活性化／産業振興【新潟のブランド化】

連携大学

新潟大学、敬和学園大学、新潟経営大学、青山学院大学

事業目的

- 新潟県全域を対象とした「新潟の潜在的な魅力の発掘」、「ブランド化の提案」、「国内外への情報発信」の3段階の事業推進により新潟のプレゼンス向上を図ります。
- 第1段階では、新潟県及び首都圏の学生や外国人留学生の視点を導入した新潟の歴史、自然、文化、生活、ひと等の観点での組合せによる魅力を発掘します。
- 第2段階では、その魅力を新潟の産品、観光、人材等のブランド化の具体的提案につなげます。ブランド化の提案については、学生が参画する「地域ブランド化コンテスト」等を実施することで教育的効果も見込んでいます。
- 第3段階では、協力大学である青山学院大学のコミュニケーションツールを活用して新潟の魅力を広く国内外に発信し、体験型ツーリズムの導入によって首都圏から新潟への恒常的な人の流れを作り、地域活性化を促進するラインを整備します。

1. ナントレプレナーシッププロジェクト【新潟大学】

- 新潟県では多くの中小企業がビジネスを行っており、そこでは多くの人々が多様な理由ややりがいなどを抱えながら仕事をしています。本プロジェクトの目的は、地元中小企業の経営者と新潟大学の学生が一体となり、新潟の地で経済を支える諸企業で働く個人の魅力・そこで働く理由・難しさ・やりがいを学ぶとともに、経営意思決定上で実際に直面している問題・課題に対する解決策を検討・提案することにあります。
- 上記の学びを担当学生以外にも共有できるように、ウェブコンテンツの制作・発信も行います。

新潟(N)+アントレプレナーシップ(entrepreneurship)
=ナントレプレナーシップ地元中小企業
経営者

- ・自社の魅力を発信
- ・若者の意見をビジネスに吸収

インタビュー

個人の魅力、そこで働く理由、難しさ、やりがい

経営意思決定上で直面している問題・課題

解決策を検討・提案

学生

- ・ウェブコンテンツを制作・発信
- ・アントレプレナーシップに触れる

新潟のインターナルブランディングを図るべく、新潟の中小企業を対象として学生が主体的に調査を行うとともに、中小企業が抱える生の経営意思決定上の問題・課題に対して解決策の提案を行います。当プロジェクトは、企業の経営者をはじめとした、新潟で働いている個人(特に組織における重要な意思決定を担う立場の個人)を対象とし、それぞれについて学生チームが担当して、「新潟で働く理由や魅力」を至近距離で深くインタビューします。それと同時に、実際に直面している「経営上の問題・課題」を示してもらい、それに対する解決策をチームごとに提案し、「新潟で働く難しさややりがい」についても学びます。これは、新潟の中小企業の「舵取りを全社的な視点から学ぶ」ことが目的です。これらの取り組みを通じて、新潟の中小企業の魅力・そこで働く理由・難しさ・やりがいを取材学生自身が学習し、将来の中小企業を担っていく人材の芽を育成します。また、こうした学びを他の学生等とも共有しやすくするために、ウェブコンテンツの作成と発信も行います。

2. 映像コンテンツ共有事業【敬和学園大学】

- 「現代メディア論」、演習科目を通じた映像作品の制作、「Keiwa Lunch」等の番組配信を行います。
- 「工場の祭典」に関連する新潟大学の事業とも連携した番組制作、学内各ゼミの協力を得て、地域・多文化・環境など多様なテーマとした、取材、番組制作を行います。
- これらをまとめたポータルサイトを構築し、大学、ゼミ活動、多文化、地域(新発田、粟島浦など)、環境など多様な切り口で表示できるようにします。



3. 写真コンテンツ共有事業【敬和学園大学】

- 「写真の町シバタ」と連携した新発田フォトウォーク(1年生原則全員参加)を今年度も実施。学生による地域情報発信を促進するために、写真共有プロジェクト「Keiwastagram」を、アクティブラーニング演習の取り組みとして推進、学内の関心を喚起しつつ、新発田市内などでの撮影及び展示を進めます。



4. 情報メディアプログラム推進事業【敬和学園大学】

- ディプロマプログラム「情報メディアプログラム」を推進するため、情報メディア研究所による課外ワークショップを定期的開催。1)メディアの信頼性、2)インタビュー等の表現、3)県内各地域の諸問題に関する理解、4)情報セキュリティ・情報リテラシーなどについて、主として客員研究員を中心とするワークショップを開催します。

2-4

地域活性化／産業振興【社会人の学び直し】

連携大学	新潟大学、事業創造大学院大学、新潟青陵大学、新潟薬科大学
事業目的	<ul style="list-style-type: none"> ●「企業経営・産業振興に繋がる地域イノベーション(地域創生講座)」と「潜在看護師等を中心とした医療関連人材の育成」の2つの領域に関するプログラムを設計・検証し、e-Learning等のインフラ整備を整え、事業協働地域の大学、自治体での活用と波及を図ります。この学び直しプログラムを「履修証明プログラム」として位置付けることにより、専門的知識修得の証明として再就職、再チャレンジの促進につなげます。 ●「地域創生企業ケーススタディ事業」では、新潟大学大学院技術経営研究科(MOT)及び事業創造大学院大学(MBA)の互いの教育資源を共同活用し、地域のイノベティブ人材の育成と企業・諸団体が抱える課題解決を並行して実施するプログラムを新規に開発します。 ●「潜在看護師及び薬剤師等の学び直しプログラム」では、定年退職や途中リタイアした潜在看護師や薬剤師等を再教育し再就職を支援することを目的としたプログラムを設計・開発します。

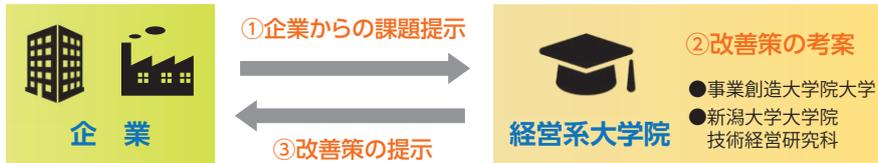
1. 地域創生企業ケーススタディ事業【新潟大学、事業創造大学院大学】

- 本事業では県内企業の経営分析を通じ、産業界と大学との関係性を育むことを目指します。
- 具体的には経営管理や技術経営を専攻する学生が県内企業の抱える経営課題を当該企業と共に分析し、解決策を考案しフィードバックを行います。
- また、新潟大学工学部・協創経営プログラムが展開する課題解決型インターンシップとも連携し、多様な視点を提供します。
- これにより県内企業の経営力の向上を目指すとともに、産学連携の拡大と質の向上を図ります。



地域創生シンポジウム

地域創生企業ケーススタディの展開イメージ



&

【関連事業】

- ・ 地域創生教材の作成と配布
- ・ 地域創生シンポジウムの開催

2. 高度実践看護師(専門看護師)等育成事業【新潟大学】

- 高度実践看護師(CNS)の広報活動を目的とし、新潟大学卒業生や県内で就業する看護職員を対象に広報用リーフレットを配布し、CNS研究会、研修会、交流会を開催します。
- CNS実践事例から実践知の抽出と報告書作成や学会等での事業紹介を行います。



広報用リーフレット



高度実践看護師育成シンポジウム

3. 薬剤師、栄養士等の学び直しによる地域包括ケアの推進【新潟大学】

- 地域包括ケア・在宅ケアを充実・普及させていくためには、実際の活動を担っていくコア職種(看護師・薬剤師・管理栄養士およびその他の職種)が交流し、知識・認識を共有する必要があります。コア職種による交流・研修会を立ち上げるために準備会議、検討会を行います。

4. ナースの再就職支援講習会～セカンドライフの就労～【新潟青陵大学】

- 高齢者ケアや高齢者施設での就労に興味関心のある方を対象として、ナースの再就職支援講習会を実施します。高齢者ケアについての知識やスキルを修得し、セカンドライフの就労について考える機会とします。
- また、新潟県内の老人福祉施設等の看護師を対象として、高齢者施設の現状や看護師の役割に関するアンケート調査を実施します。

潜在ナース

高齢者施設



3

教育の国際化

連携大学

新潟大学、新潟県立大学、事業創造大学院大学、新潟国際情報大学

事業目的

- アジア圏からの留学生を対象にした短期留学プログラムを連携大学で強化し、日本人学生との交流を活発化させることでキャンパス・グローバル化を推進します。
- 連携大学間で開講する日本語教育に関する授業科目の相互乗り入れや協働カリキュラムの設計を行うことで留学生への日本語学修支援を強化します。

1. ビジネス日本語教育の強化 【新潟大学】

- 留学生が新潟県に強い関心を持ち、卒業後新潟県で就職したいという考えを持てるように、新潟県内の企業状況に関する講義と仕事に必要な日本語教育の実施を行います。
- 単にビジネス日本語に特化するのではなく、県内で仕事をしている外国人や外国人を採用している企業関係者をゲストとして招き、仕事の現状を聞く機会を作ります。
- 1科目ビジネス日本語科目を増設し、多くの留学生が受講できる環境を作り、就職支援につなげます。



2. 外国につながる子どもの日本語学習支援 【新潟大学】

- 外国につながる子ども（主に留学生の家族である児童生徒）を指導する学校教員等の研修を実施し、増加している留学生の子どもたちの日本語学習支援を通して新潟地域の教育の国際化を図ります。
- 外国につながる子どもたちの日本語や教科学習支援を充実させ、留学生の県内就職促進につなげます。

エフェル・サルフ

3. FL-SALC内の日本語学習相談コーナーの設置 【新潟大学】

- FL-SALC（新潟大学図書館の外国語学習支援スペース）内に日本語学習の悩みや方法を個別にアドバイスすることを目的とする日本語学習相談コーナーを開設します。
- 対象は留学生、留学生の家族、地域に在住する外国人。対応言語は英語と中国語。



4. 日本語支援室の設置 【新潟県立大学】

- 日本語学習経験のない大学院生の受け入れや短期の交換留学生が急増し、既存の科目では対応できなくなっている状況を踏まえ、交換留学生等の日本語学習支援を目的とする「日本語支援室」を新潟県立大学内に設置します。
- 本事業を安定的に進めることで、留学生の自主学習、活動の幅をさらに広げた日本語教育、留学生支援システムの構築などへつなげます。

COC+ の連携を通じた教育の国際化を育む場の構築

- 留学生の就職支援
- 留学生の家族、地域に在住する外国人への日本語学習支援など

1. ビジネス日本語教育の強化
2. 外国につながる子どもの日本語学習支援
3. FL-SALC内の日本語学習相談コーナーの設置
4. 日本語支援室の設置



- 留学生が県内に長期滞在
- 国際交流により地域活性化

4

国際交流

連携大学

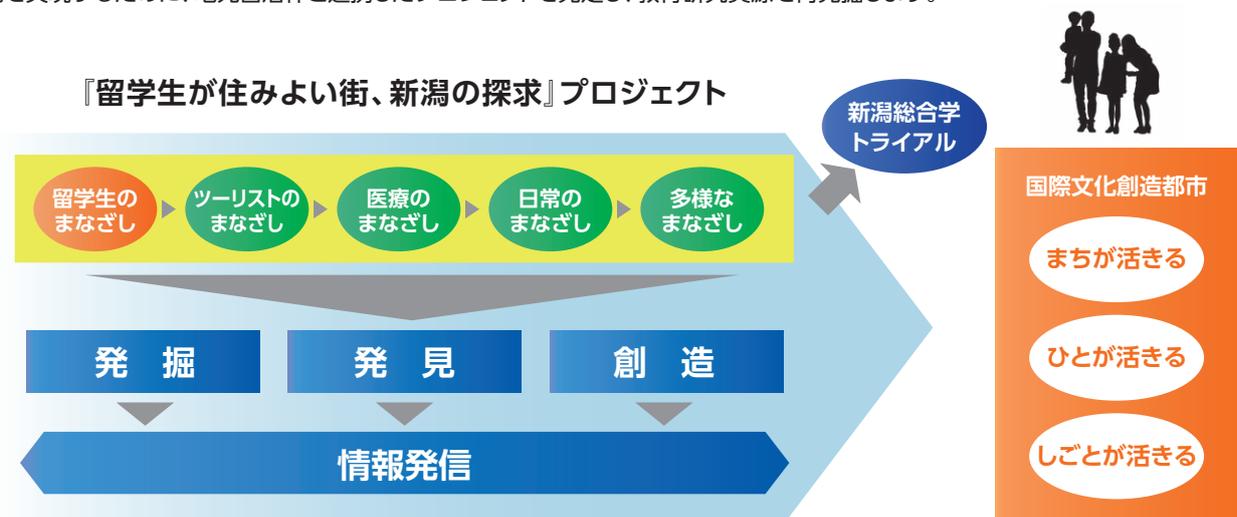
新潟大学、新潟県立大学、事業創造大学院大学、新潟国際情報大学、青山学院大学

事業目的

- これまで各大学、自治体、産業団体等がそれぞれ独自に展開してきた国際交流事業を共同で企画・実施することにより、日本人学生と留学生だけではなく、広く市民を対象とすることで交流人口の拡大を図ります。
- アジア圏を視野に入れた国際交流促進と学術研究によるイノベーション創出を実現します。

1. 留学生が住みよい街新潟の探求 ～1週間ナビゲーション・プログラムの構想から～【新潟大学】

- 新潟が魅力ある国際文化創造都市となるために、留学生の視点から住みよい街新潟を探求します。
- 留学生が新潟で安全かつ満足な生活を送るための実用的ナビゲーション・プログラムを作成し、運用可能な仕組みを提言します。
- 上記を実現するために、地元自治体と連携したプロジェクトを発足し、教育研究資源を再発掘します。



2. 国際交流サマーセミナーの開催【新潟県立大学】

- 国際交流WGを構成する4大学の留学生、海外協定校の学生、および日本人学生の計40人ほどが、8月上旬の1週間、新潟市と十日町市・津南町において「グローバル時代の地域力」をテーマに地域見学とグループワークを行い、地域の特性を理解しそれを国内外にアピールする方策について学び合い、成果を発信します。



3. 第4回ハノイビジネスマッチングとベトナム現地調査【事業創造大学院大学】

- 成長著しいベトナムを訪問し、新潟県企業をはじめとする日系企業の国際化の現状とベトナムでの事業内容を把握し、見聞を深めます。
- 起業家育成、企業内起業の実現に向け、事業創造大学院大学の修了生他とのビジネスマッチングを実施します。またベトナムビジネスに関心を示す企業にも経営者団体等を通して参加を呼びかけます。
- 事業創造大学院大学ベトナム人修了生および在ベトナム交流協定校である6大学の教員・学生と交流し、将来のビジネスにつなげます。



4. 海外提携大学との国際交流事業【新潟国際情報大学】

- 新潟国際情報大学の海外提携校（ロシア、中国、韓国、アメリカ、カナダ）5校から、教職員及び学生を新潟に招聘し、新潟県内の産業・イベント・自然等を視察の後、テーマを設定しワークショップを実施。学生によるプレゼンテーション・意見交換を行います。
- 県内視察・ワークショップ等の活動をSNSにて発信します。
- ワークショップ・意見交換等、本事業の事前告知を行い、他大学の学生の参加を募ります。

